関大

発行所
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敷民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

(心斎橋店・京橋店)
コンタクトレンズ
メガネ
大学堂
心斎橋店(271)7891
京橋店(353)2419
虹のまち店(213)1650
阪神百貨店(345)1201

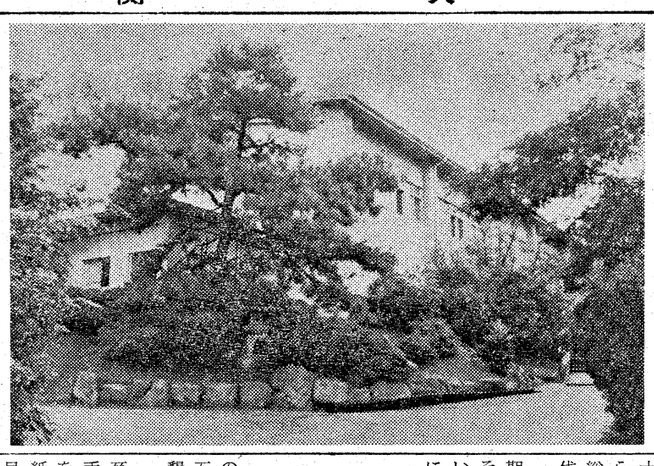
昭和47年度校友総会

10月22日 千里山学園で開催

昭和四十七年度校友総会は、来る十月二十二日(日)午前十時半から桜梅千里山学園関大一高体育館で開くことに決定した。校友総会は校友会年一回の中心的行事であるため、執行部では鋭意企画を検討中であるが、なかでも本年度は、本部役員の任期満了に当たり、代議員の選任を総会で審議するほか、先の第三回海外視察〝韓国古代文化遺跡の見学〟について母校考古学教室網干善教助教授の報告があり、日韓文化の関連性について解明されるなどの行事が予定されている。

任期満了の代議員改選

執行部では、本年度校友総会について、目下検討中であるが、九月五日の総務部会でほぼ成案を得た。これは九月二十六日の常議員会にはかったあと実施にうつされる運びである。


校友総会の開かれる一高体育館

これによると、日時は十月二十二日の日曜日、千里山学園関大一高体育館を会場に、午前十時開場十時半から開会し、まず校友会ならびに母校の近況報告などのあと総会議事である〝任期満了による代議員改選の件〟を審議する。

これは本年度が、本部役員の任期三年が満了し、代議員・常議員その他の役員が改選となるのに伴い、代議員の改選は会則第十三条に、代議員は総会で会員の中から選出すると定められており、従来から三年毎の校友総会で議案を審議している。

これらに関連して、本年度は従来の親睦を中心とした趣向を離れ会場も六年ぶりに母校千里山学園に帰り、母校のふん囲気に親しんでいただく〝和やかな総会〟となるよう企画を進めている。

とりわけ今回は、去る七月本部主催の第三回海外視察〝韓国古代文化遺跡見学団〟が、百済王墓武寧王陵の特別見学など貴重な成果を得たことに対し、文学部網干助教授から、関心高い日韓文化の関連性について解明いただく予定である。

なお午後には、一高食堂に会場をうつし、母校応援団吹奏楽部の演奏をとり入れ校友を歓にふさわしい企画を考えている。

因みに校友会役員の改選は、代議員の改選にはじまり、先例によると本年末には新代議員への委嘱を終り、明年一月に臨時代議員会を持ち、新たに正副議長、会長、常議員、監事の選任をはかり、二月中には新執行部が出揃うことになる。

校友会のあり方など

執行部 顧問参与と懇談会開く

校友会執行部では、顧問・参与の各位を招き、八月二十八日午後五時半から、北浜「清友会館」で懇談会を開いた。

校友会では、本年四月以来、全卒業生収載の校友名簿の発行に着手し、十一月末刊行を目途に作業を進めているほか、六月には機関紙「関大」創刊二百号を発行、七月には第三回海外視察「韓国古代文化遺跡見学団」の訪韓、ならびに法人評議員の改選に伴う校友評議員候補者の推薦、十月からは校友会本部役員の任期満了に伴う代議員、執行部の改選と、例年にない多くの事案と取り組んでいる。

懇談会は、これら校友会事業の近況について、樫本会長から報告、これを端緒に懇談に入った。

席上、主たる話題は、法人の評議員に関する問題や、校友会の今後のあり方、財政基盤の問題などが懇談の中心となった。

なかでも「校友会のあり方」では、校友会活動を前進させる意味からも「公害講座」のような地域社会に先鞭をつけるためのバックアップを望みたい、また校友会は親睦の会であり、役員の改選等では幅の広い選考を期待したいなどの意見が述べられた。

また「校友会財政の問題」では、今後の財政基盤確立のために広告料・終身会費など検討の余地はないか、ことに在来の終身会費のままで、毎月新聞を送ってもらっているが、良心的すまない気持がする。物価高騰の折でもあるので、在来の終身会費払込者にも納得の行く形で、何か増収策を考え、財源の確保を講じてはどうか。

以上のように執行部活動の指針ともいえる建設的な提言がなされ有意義に会を閉じた。

出席者は次の通りであった。

大月顧問、岡野顧問、広瀬顧問、阿部参与、木下参与、田中参与、村上参与、矢野参与、安富参与、山崎参与、吉田参与

(執行部側)樫本、大島正副会長、松村、大森代議員会正副議長、坂本総務、高橋事業、藤田広報各部長、以上一八名

五教授が研究発表

公害防止技術講演会開く

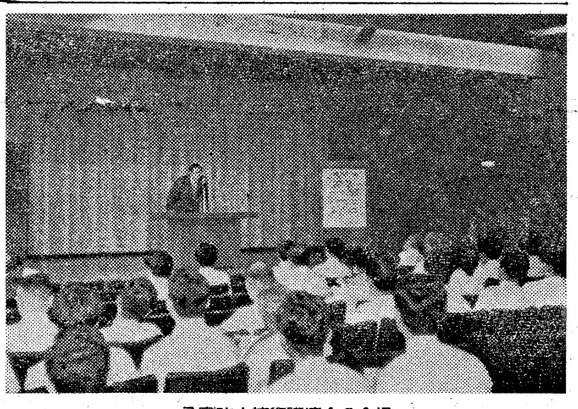
関西大学工業技術研究所、同研究所賛助員会共催の公害防止技術講演会は八月二十八日午後二時から大阪西区靱の大阪科学技術センター八階大ホールで開かれた。

公害はやや大きな社会問題となっているが、当日は公害防止技術研究を進めてきた工学部の日頃の研究成果を五教授が発表。京阪神の関係官庁、下水道関係者、工業技術研究所賛助会員、一般来聴者など会場をうめた約二百三十名の聴衆はメモなどをとって熱心に聞き入っていた。

講演会はまず、「公害の現状と対策」と題して庄司光教授が、公害の発生要因、件数、裁判の判決についてなど総括的講演を行ない最後に公害防止研究のためには科学者、技術者が従来のような狭い専門分野に閉じこもっていてはきず、相互の関連する分野の人との協力によって総合的な観点に立たなければならないと結んだ。

「公害対策としての活性炭」を発表の横川親雄教授は、自動車の排気ガス中の有害物質除去や上下水道における水処理に有効視されている活性炭について講演、続いて三箇清治教授は「ゼオライトを利用した汚泥処理法」と題し、従来の下水処理では困難で赤潮などの原因となっていたアンモニア性窒素とリン酸塩除去にゼオライトを使った新しいプロセスを導入して処理が可能となる実験結果を発表した。

その他、松山卓蔵教授は「集じん装置の選択とその問題点」、高瀬孝夫教授は「アメリカ鋳物工業における環境改善の動向」と題してそれぞれの成果を発表し、五時すぎ終了した。(二面に庄司、三箇両教授の講演要旨を掲載)


公害防止技術講演会の会場

十一講師を派遣

吹田市の市民大学教養講座

文学部教育学科の教職員が出講して毎年開かれている吹田市秋季公民館講座は、今年は装いも新たに第一回市民大学教養講座として九月二十日から二カ所で開催される。

今回は、一般成人を対象に「現代社会における家庭と教育」を主テーマとして基礎的知識の普及を図ることを目的として、Aコース(南センタービル)Bコース(市民会館)の二カ所でそれぞれ十回の講座が開かれるが、八回以上出席者には修了証書を渡す。

また講座開設にあたっては内容形式など全面的に関大が協力し、出講教員は、鈴木祥蔵、海老原治善、村尾能成各教授、中島巌、山下栄二、藤井稔、石島洋介、宗孝文、小川正各助教授、田中欣和、粉谷寺孝各専任講師の計十一名。

講座内容は「日本教育の当面する諸問題」「変動する社会と教育」「人間の発達の特質と教育」「岐路に立つ幼児教育」「学力と知能をどう考えるか」「高校進学をめぐる諸問題」「青年期の理解と指導」「生涯教育の問題」「部落問題と教育」となっている。

十月七日 関大会館で

支部職域同期代表者総会

昭和四十七年度の全国支部職域同期代表者総会は十月七日(土)午後二時から、母校千里山の関西大学会館で開催されることになった。

執行部では、毎年校友会所属の地域支部、職域、同期、各種団体の代表者による総会を開き、本部との連繋並びに組織相互の交流をはかり成果を上げてきている。

本年度は、「職場と人間関係」をテーマに母校社会学部の広田君美教授から、職場にあって問題となる人の使い方・育て方を中心に講演を伺うことになった。

次いで総会では、会長からの本部近況、理事長、学長からの学園の近況報告を受けた後、代表者との懇談が予定されている。

執行部では関係各組織からの参加を期待している。

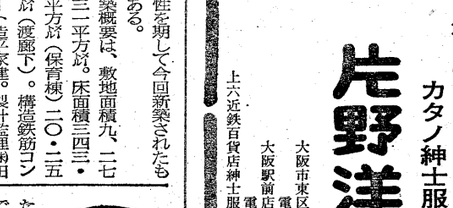
新園舎落成

一層の教育充実を期す

四月一日から改築工事を進めていた幼稚園新学舎は八月三十一日完成し、九月六日午後零時半から久井理事長・吉田評議員会議長・石島幼稚園長をはじめ母の会役員など関係者多数が出席して落成式が行なわれた。

幼稚園は昭和二十六年四月に創立して以来、逐次園舎を増築して施設の拡充を計ってきたが、木造形式など全面的に関大が協力し、出講教員は、鈴木祥蔵、海老原治善、村尾能成各教授、中島巌、山下栄二、藤井稔、石島洋介、宗孝文、小川正各助教授、田中欣和、粉谷寺孝各専任講師の計十一名。

講座内容は「日本教育の当面する諸問題」「変動する社会と教育」「人間の発達の特質と教育」「岐路に立つ幼児教育」「学力と知能をどう考えるか」「高校進学をめぐる諸問題」「青年期の理解と指導」「生涯教育の問題」「部落問題と教育」となっている。



のためいたみが激しく、園児の防災安全確保においても危惧される状況になり、また、教育上の見地からも、近年における幼児の発育状態や幼児教育法の進展に鑑み保育室の広さ、構造・配置等不適当な面が目立ってきたため教育上の充実性を期して今回新築されたものである。

建築概要は、敷地面積九、二七〇・三二平方㍍、床面積三四三・一五平方㍍(保育棟)二〇・二五平方㍍(渡廊下)。構造鉄筋コンクリート造平家建。製計監理㈱田賀建築設計事務所。施行㈱竹中工務店。工費五、〇六〇万円

写真集・関西大学

毎日新聞社が大学シリーズ

現在の、昭和四十七年度卒業生の就職状況は、一部六四・二%、二部四〇・五%で、一部の場合昨年同期に比べると約九%ほど低くなっている。これは就職内定が早くこのたび、毎日新聞社より本学の写真集が十月末日に発刊されることとなった。

このシリーズは伝統のある有名私立大学をえらんだもので、東京の七校に次いで、関西では、さきに同志社大学が発刊され校友諸兄から「本学はどうか、いつ発刊されるか」と、ご照会をいただいたりしたが、いよいよ本学も毎日新聞社の企画にのぼり、会社において編集をほぼ完了、発刊される運びとなった。

体裁はB5版・約一八〇頁、カラー表紙カバーつき、価格・一、〇〇〇円。

収録写真の内容は、「創立以来の歴史的な写真」と「発展する学園、カレッジライフを紹介する現在編」とからなり、現在編の巻頭は見事なカラー頁で飾られることになっている。歴史写真は明治二十二年第一回卒業生記念写真を始め大学所蔵の写真、校友から提供いただいたもの、毎日新聞社調査、写真部提供のものなど、いずれも貴重な写真が収録されている。なお、さきに当・紙面で、お手持ち写真の提供をお願いしたところ、さっそく各位よりご提供いただき大学当局を通じてこの企画にも活用させていただいた。ここにお礼を申しあげます。

記事内容―巻末は「創立者の横顔」「わが若き日の思い出……明治、大正、昭和初期・戦中戦後・各時代の校友寄稿」「想い出の街……校友寄稿」「学長のビジョン」「年譜」などの記事スペースとなる。

いま本学は創立八十七年を迎えんとしたかも本学関係者と本学学生の作業従事による〝高松塚古墳の発掘〟、野球部による昭和三十一年以来十六年ぶりの〝学生野球王座獲得〟の快挙あり、これらも紙面を飾ることができた。

校友各位におかれては「関西大学・目で見る小史」として、ご高読くださるよう、ご案内申しあげます。

47年版 校友名簿の申し込みはお早めに!

関西大学創立以来の全卒業生を収録し、四年ごとに発行する校友名簿は、十一月末発刊を目指し、現在急ピッチで編集作業を進めています。名簿の正確を期するため会校友に照会ハガキを出しましたが、ハガキの届かない方は連絡不能者となります。知友の方でハガキの届かない方がおられましたら校友会までご連絡下さるよう各位からお知らせ下さい。

なお名簿は頒価二、八〇〇円、郵送料四〇〇円です。予約申し込みは左記へお早めに申し込み下さい。

吹田市千里山　関西大学会館
関西大学校友会
振替口座大阪五五九四番

就職状況 一部64%

巨大企業に五割が決定

就職課から発表された八月末日現在の、昭和四十七年度卒業生の就職状況は、一部六四・二%、二部四〇・五%で、一部の場合昨年同期に比べると約九%ほど低くなっている。これは就職内定が早くそれほどの影響を受けなかった昨年のドルショックが今年になって響いているものと思われる。

学部別では、一部法学部八〇・四%、文三九・七%、経済七四・七%、商七四・〇%、社会五七・八%、工五四・四%。同二部法四〇・五%、文三三・三%、経済四四・八%、商四五・七%、社会二〇・〇%となっている。

企業規模別では、一部の場合、就職決定者二、二六二名中、巨大企業には一、一一八名で全体の約五割である。

会と催

◇大阪市中学校教員同志会秋季総会　九月十八日午後六時から茂橋筋「蓬莱本館」三階

◇姫路支部総会　九月二十日午後六時から福中町「松菱本店」

◇常議員会　九月二十六日午後五時半、大阪弁護士会館六階ホール

◇マスコミ関大会総会　九月二十七日(水)午後六時半から、梅田観光ビル「マングリン」において開催。食べ放題、飲み放題、会費二五〇〇円、〝桂三枝〟来場予定。申込先　大阪市北区芝田町六五の一商工中金ビルタムラアドセンター内　田村卓郎あて(電話にても可(372)六四四一番)

◇全国支部部職域同期代表者総会　十月七日(土)午後一時半開場　千里山「関大会館」四階集会室

茅の雲

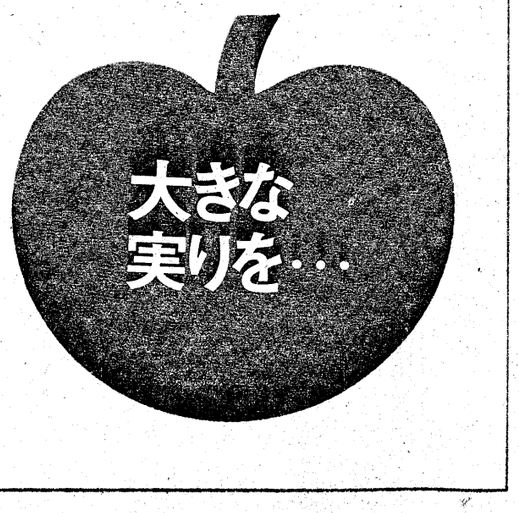
つい先日までのきびしく、たえがたい暑さが遠のいて、朝夕はさわやかな涼気を感じるようになった。キザな言葉で「読書の秋」である▼だからというわけでもないが、徳川幕府の幕末の立役者、勝海舟の「氷川清話」を読んだ。海舟は、正月に餅もつけぬ貧乏旗本の家に生れ、刻苦勉励ついに幕府を背負って立つほどの人物になり、晩年は、伯爵を授けられ、枢密院顧問官として、わが国政界の元老格の存在になり、自分の孫娘に、十五代将軍徳川慶喜の息を養子にもらった。覆面の評論家、イザヤ・ベンダサンは、〝勝海舟は、日本近代における第一級の政治家〟と称揚している。〝いま大関〟といわれる田中首相もそうだ。貧窮の家に生れ、苦心、努力、ついに総理大臣の地位にまで登りつめた▼このような話は、単に政治家だけではない。一芸一道に秀でた人も同じである。土俵の鬼といわれた名横綱若乃花も、あの軽量な体躯で、日々が精進努力の連続だった。もし不覚にも、前夜飲みすぎて躯に生気が欠けるようなとき、これは〝昨日の罰だ〟と思い、平常の二倍、三倍のはげしいけいこをしたとのことだ▼オリンピック選手のメダリストたちもそうだ。毎日の皿のでるような練習、工夫、努力の積み重ねが結実したもので、立派な記録や栄誉は、その人の委質や幸運がもたらすものではない。勝海舟もいっている「身体が壮健で、精神が勇ましく、根気が強い。これが、天下の仕事をするの上に、だいじなことだ」と、健康と精進で、目的を達するまでねばり抜くことを強調している▼もっとも、現在では、立身出世や、その道の第一人者になるなどということは、一般には、そう強い関心事ではない。しかし、旅行をしたり、結婚生活をしたり、マイホームを構えたりするにしても、それ相応の努力がいる。それも人なみ以上にということなら、やはり、人なみ以上の力がはたらかねば、その結果はでない▼話は理におちたが、要は、きびしい暑さをおり越し、さわやかな秋の好季を迎え〝さあ、これからだ〟

カタノよい　カタノこらぬ　カタノくずれぬ　カタノ洋服店
最高のおくりもの
カタノ紳士服地
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目北浜駅西百米
電話大阪(231)〇五六五～七
大阪駅前店 第一生命ビル 専門大店
電話 大阪(341)〇七九二
上六近鉄百貨店紳士服サロン　テーラーカタノ

満期が楽しみ！同和火災の
積立総合保険
〈長期総合保険〉
同和火災海上
大阪 東京　大阪市北区神明町6 1　東京都中央区日本橋通3-7-1

プレゼントのお考えはきまりましたか
ビジネスバッグ・旅行カバン
GIFT 贈答好適
サイフ・ハンドバッグ・カバン専門卸
ご一報者にカタログ急送
K.K廣島屋本店
取締役社長　蔵田廣造
(昭和25年 経済学部卒)
〒541 大阪市東区博労町1―26
TEL 06―261―2431

運転免許は
校友がお世話する
〝大阪城東の〟
公安委員会指定
都島自動車教習所
大阪市城東区別所町157
〒536 TEL(06)912―7171
担当 太田清太郎(昭29.学2法)
優待証
関大
校友、在学生、又は校友紹介の方は左の優待証を切り取り持参下さい。授業料割引きの特典あり。



預金も/信託も/不動産も…
大和銀行

冷暖房換気設備工事
給排水衛生設備工事
設計並びに施工
大阪城口研究所
取締役社長　城口庸平
本社　大阪市北区高垣町一番地
電話 大阪(311)三七二局七一五一番(代表)
京都出張所　京都市東山区大和大路正面上ル
電話 京都(561)五六一局四九四四番(代表)
神戸出張所　神戸市生田区下山手通六丁目一番地
電話 神戸(391)三四一局五八九二番

人の時間拝借

校友あれこれ対談

全日本空輸
取締役大阪支店長
諏訪正弘氏

聞き手　吉田三七雄

―15―

諏訪正弘氏

つねに〝無理するな〟

感無量 航空券第一号発行

吉田　お忙しいんですねえ。あなたにお会いするために、ひと月近く苦労しましたよ。だから、やっとその念願を達したとたん、お聞きすることを忘れてしまった。(笑い)

諏訪　どうもすみません。そんなつもりじゃないんですが、なにしろ月のうち半分以上席にいないんです。わたしの受持は、名古屋以西ということになっていて、名古屋、大阪から四国、中国、九州沖縄までの各営業所を回わるだけで、ひと月の半分は飛んでしまうし、それに東京本社での会議があるでしょ。だから、お約束しておいて、そのお約束を破るようなことがあると反って失礼だから、うかつにお約束も出来ないんです。ほんとにすみませんでした。

吉田　いや、お会い出来ただけで幸わせと思っています。(笑い)それで、いったい休みはいつとられるんですか?

諏訪　それがネ、いま申した通りですから、土曜日と日曜日はここ(支店長デスク)で書類の整理をすることにしてるんです。だから特別に休みの日というのはないんです。因果な商売です。(笑い)

吉田　花形産業のトップ・マネージメントなんだから、お気の毒とは思うんだが、あきらめてもらわな仕方がない。(笑い)

諏訪　そういえば、あなただって同じことでしょ。お互いにほんとに因果な商売ですねえ。(笑い)

社員ナンバー・1

吉田　諏訪さんは、たしか全日空の社員ナンバー・ワンでしたね?

諏訪　わたしは、戦争中は福知山にあった高等工業の航空科で、飛行機のバランスや改造の研究をしていたんです。沖縄作戦の頃アメーバ赤痢にかかり、そのあと冥土の一歩手前まで行ってきたんですが、奇蹟的に助かり、それからブラブラしているうちに敗戦。母がもう一度学校へ行けというので働きながら関大の夜間へ通うことになったんです。それから学一の経済へ進み、昭和二十七年に卒業して、最初は日本航空へ入社したんです。ところが、岡山県の出身で運輸省の事務次官をしていた叔父が、同郷の美濃路(みのじ)先生(元全日空社長、朝日新聞顧問・美濃路昌一氏)が、日本ヘリ航空をおやりになるので、お前はそのお手伝いにゆけということで、その翌年の春に日本ヘリに移りました。この日本ヘリが極東航空を吸収合併して昭和三十三年に全日空になったというわけです。

吉田　それじゃ、やっぱり全日空の社員ナンバー・ワンということになりますねえ。

諏訪　最初からというと、このビル(大阪・全日空ビル)の専務をしていられる先輩の中川喜久造さん(昭和九年大法卒)と二一緒でした。わたしはずっと営業畑ではじめて定期便を出したのもわたしでした。だから、全日空の最初の航空券、1B―0001(ワンビー ゼロゼロゼロワン)をお渡ししたのもわたしで、今でもそれを思い出すと感無量です。

吉田　現在、全日空はどれ位の便を出しているんです?

諏訪　一日に四百四十便です。つまり、その距離を合計すると、毎日地球を三周以上飛んでいるわけです。先日も中国の方にこの話をしたら、それは一年間の間違いだろうと、なかなか信じてもらえませんでした。(笑い)

吉田　そりゃあ信じられんだろうなあ。(笑い)

諏訪　旅客数は世界の九位で、日航さんはたしか十五位でした。

吉田　中国といえば、これから中国との間に定期航空路が出来ると思いますし、そうなればますます忙しくなるわけですねえ。

遊びでは世界一に

諏訪　早く実現する日を待っているんです。でも、お客さんのほとんどは日本人でしょうねえ。

吉田　それはどういうこと?

諏訪　お客さんがどんどん増えることはうれしいが、遊びにかけては世界一なんて、自慢にもなりませんねえ。(笑い)

吉田　今でも飛行機はこわいというひとがいますか?

諏訪　まだありますねえ。もちろん年配の、それもご婦人方で、若い人で飛行機がこわいなんてのはありません。こわいといわれる方でも、一度飛行機に乗られるとこんどは、飛行機ほど速くて楽で便利なものはないとおっしゃるんだから、面白いものですねえ。(笑い)

吉田　家を一歩出たトタン、自動車にドカンとやられる時代に、飛行機がこわいなんて、それはあんまり通用しませんなあ。(笑い)

諏訪　事故件数からいっても、そのパーセントは非常に少いんですが、もしも事故が起きると大きいですからねえ。だからわたしは決して無理するな、少しでも調子がおかしいと思ったら、無理せず直ぐに引き返せと、つねにいいつづけているんです。

吉田　ほんとにその通りです。なんでも無理することが、いちばんいけないことだと思います。ところで、大阪の空港問題についてなにかお考えがありますか?

諏訪　大阪新空港の候補地といわれている周辺には十一の都市があって、目下のところ賛否両論に分かれていますが、いつまでこのままでは、日本は世界の航空界から遅れますし、世界の経済界からも大阪は一歩後退することになるんじゃないでしょうか。ほんとにむつかしい問題ですね。

吉田　サラリと体をかわされましたね。(笑い)ほんとにお忙しいところすみませんでした。お身体のほうも、どうか無理しないでガン張って下さい。

諏訪正弘(すわ・まさひろ)
全日本空輸・取締役・大阪支店長　昭和27年学一経卒

公害防止技術講演会 要旨

公害の現状と対策

工学部教授　庄司光

かつては公害現象が局地的あったのに対して、近時においては、その原因や被害の状況、あるいは地域的のひろがりが一変した。ほとんど全国的なひろがりで、国民の一人一人が身近かに環境汚染の影響を受け、脅威を感じるようになった。思いがけない環境汚染をもたらした例にPCB（ポリ塩化ビフェニール）問題があり、東京湾、琵琶湖等の魚介類、鳥をはじめ人間の母乳等からもPCBが検出され、その慢性毒性による健康影響が心配されている。昭和四十五年の夏以来、東京都その他の都市では大気汚染物である窒素酸化物、炭化水素が太陽輻射の作用をうけて光化学スモッグが発生している。海の汚染が主たる発生原因である赤潮の瀬戸内海における発生状況をみると、昭和四十五年には伊予灘、安芸灘ほかで一部を除くほぼ瀬戸内海全域に発生がみられるまでになった。水産資源の宝庫といわれた瀬戸内海が年々汚染の度を増し、大量の漁業被害を生ずるまでに至った。

公害、環境破壊が爆発的な様相を呈することとなったが、その背景は日本経済が急速の成長をとげ、産業・人口の都市集中のテンポがいちじるしかった反面、生活環境関連社会資本の整備がこれに追いつかなかったため、経済社会の諸活動の規模と生活環境関連社会資本ストックが生じてきたことである。

急激に進行する環境汚染の脅威に対し、住民の反応も激化した。住民から地方公共団体に寄せられた公害に係る苦情、陳情の件数は昭和四十五年度には六三、四三三件におよび、内訳は騒音振動が三六％、悪臭が二四％、大気汚染が二〇％、水質汚染一四％となっている。快適な生活と健康な居住環境を求める住民の要求が強まると伴い、公害反対の地域住民の活動は各地で高まった。昭和三十八―三十九年にかけての静岡県三島市、沼津市、清水町の石油コンビナート誘致反対運動は企業の進出を阻止した。この住民運動は市民と農民が連帯し、生活環境の保全という基本的人権の擁護を要求し、その運動方法も自治体の民主化を基盤として公害をなくそうという新しい方法をとり、これが運動の勝利をもたらした。

その後、公害の発生のおそれのある企業の立地に反対することによって公害を事前に防止しようとする動きは、全国的に拡っているが、反面、産業界に複雑困難な問題を投げかけている。とくに電力業界においては火力発電所の立地が困難になりつつある。そのほか、住民の強い反対を受けて地方公共団体も企業の立地に慎重に対処しようという動きが強まった。昭和三〇年代後半以後、ほとんどすべての府県が工場誘致条例を制定して地域開発に狂奔したのと比べると隔世の感がある。

防止の原動力は住民運動

公害の歴史を顧みると、公害防止の原動力は住民運動であり、民間企業はもとより、国、地方公共団体が自発的に公害の予防や後始末にのり出した例はほとんどない。被害が大きくなって住民が集団的に行動し、新聞やテレビがとりあげ、世論が被害者を支持して、はじめて、原因との調和条項」を削除した。この頃より地球的規模の環境汚染が喧しくなり、昭和四七年六月ストックホルムで「国連人間環境会議」が開かれ、人間環境宣言が採択された。その原則の二の天然資源の保護には「大気、水、土地、動植物およびとくに自然の生態系の代表的なサンプルを含む地球上の天然資源は、現在および将来の世代のために、しかるべき注意深い計画または管理により、保護されなければならない」とある。

公害訴訟で大きな転機

公害現象の多発多様化とともに公害訴訟が増加しており、最高裁判所民事局の調べによれば四五年六月現在、全国の地方裁判所で係争中の損害賠償事件の数は、訴訟二二二件、調停五四件で合せて二六六件である。公害訴訟のうち、阿賀野川有機水銀中毒事件、四日市ぜんそく事件、イタイイタイ病事件および水俣病事件は四大公害裁判として社会の耳目をひきつけている。このうち「イタイイタイ病事件」については、第一次提起分について昭和四十六年六月三十日原告（被害者側）一部勝訴の判決が確定した。「四日市ぜんそく事件」については昭和四十七年七月二十四日津地裁四日市支部は原告全面勝訴の判決を下した。

「阿賀野川有機水銀中毒事件」については昭和四十六年九月二十九日原告の一部勝訴の判決が確定した。「四日市ぜんそく事件」については昭和四十七年七月二十四日津地裁四日市支部は原告全面勝訴の判決を下した。

「四日市ぜんそく事件」の判決は企業をはじめ、国、地方公共団体に大きなショックを与え、公害に対する考え方の百八十度転換を求めるものである。判決理由要旨の第二「責任および被害らの違法性不存在の理由について」のなかで「6、仮に町の石油コンビナート進出反対運動の勝利が契機となった。

しかし、国の公害関連法律はいつも大企業の圧力で骨抜きにされる。昭和四十二年の公害対策基本法では公害防止行政についても、生活環境に関するものは「経済の健全な発展との調和が図られるようにするものとする」として、いわゆる「経済調和条項」を規定した。このために、公害規制は生活環境の防御のために不徹底であり、公害に対処するには無力であった。このことは、一九六〇年代の工業化、都市化の進展に伴い公害が激化、深刻化した事実がこれを実証している。そして公害激化地域においては法律改正の声が大となり、昭和四五年、国は公害対策基本法を改正し、「経済と調和条項」を削除した。この頃より地球的規模の環境汚染が喧しくなり、昭和四七年六月ストックホルムで「国連人間環境会議」が開かれ、人間環境宣言が採択された。その原則の二の天然資源の保護には「大気、水、土地、動植物およびとくに自然の生態系の代表的なサンプルを含む地球上の天然資源は、現在および将来の世代のために、しかるべき注意深い計画または管理により、保護されなければならない」とある。

公害訴訟で大きな転機

公害現象の多発多様化とともに公害訴訟が増加しており、最高裁判所民事局の調べによれば四五年六月現在、全国の地方裁判所で係争中の損害賠償事件の数は、訴訟二二二件、調停五四件で合せて二六六件である。公害訴訟のうち、阿賀野川有機水銀中毒事件、四日市ぜんそく事件、イタイイタイ病事件および水俣病事件は四大公害裁判として社会の耳目をひきつけている。このうち「イタイイタイ病事件」については、第一次提起分について昭和四十六年六月三十日原告（被害者側）一部勝訴の判決が確定した。「四日市ぜんそく事件」については昭和四十七年七月二十四日津地裁四日市支部は原告全面勝訴の判決を下した。

「阿賀野川有機水銀中毒事件」については昭和四十六年九月二十九日原告の一部勝訴の判決が確定した。「四日市ぜんそく事件」については昭和四十七年七月二十四日津地裁四日市支部は原告全面勝訴の判決を下した。

最善の防止措置を講じたときは免責されると解するとしても、人の生命、身体に危険のあることを知り得る汚染物質の排出については、企業は経済性を度外視して、世界最高の技術、知識を動員して防止措置を講ずべきである。被害らが右のような努力を尽したとは認めがたい」と述べている。小山環境庁長官は二十四日の四日市公害訴訟の判決についての談話のなかで「いおう酸化物に係る環境基準を手直したい」と述べている。

公害問題の解決は科学、技術によらねばならないが、科学、技術者が従来のように狭い専門分野に閉じこもるのでは十分な役割は果たすことはできない。公害は社会的災害であるから、技術者だけでは解決できない。関連する専門の分野の人との協力によって総合的な観点に立つことが前提条件である。科学・技術に携るものとしては差当りテクノロジー・アセスメント（技術の再点検）が必要である。これは「科学技術が社会システムのなかで健全に発達するために事前評価あるいは考察する」ことを意味する。テクノロジー・アセスメントを行なう場合には、その技術が関連する社会との相互作用、社会や自然や人間への影響を点検しなければならないので、多くの価値判断が入ってくる。

こういう能力をもつ技術者をつくるためには、大学における一般教養課程も新しく見直す必要がある。昨年アメリカはSST（超音速機）の研究開発を中断し、これがもたらす衝撃波や水蒸気の影響が明らかになるまで再開しないことにしたのはテクノロジー・アセスメントの一例である。現在、超高速鉄道に関しては、リニアモーターを使って磁気浮上をして東京―大阪間を一時間で列車を走らせようと研究がされている。技術者はこの技術の開発に生きがいを感じる。しかし、社会的には東京―大阪間の交通をこのままでいくのがよいのか、または日本の産業配置はこれでよいかという問題がある。科学者、技術者も社会の一員であることを認識し、自分がやっていることの社会に及ぼす波及効果を調べる責任がある。この姿勢こそ、科学者の公害対策に当る基本であろう。

新しい下水中の富栄養源の除去法（ゼオライト活性汚泥法）

工学部教授　三箇清治

アンモニア性窒素はこれまでの下水処理のうち、高級な活性汚泥法や凝集剤、活性炭等を用いる方法でも、なかなか除去されず、まことに困難となっている。わが国の下水処理法は七〇％が活性汚泥法であり、今後ともこれが主流となっているから、下水道の整備計画が急速に完備したとしても、富栄養化に関する問題は依然として残り、むしろ増加するようにも思える。

下水中の富栄養源を除去するプロセスは意外に少なくて、大量処理の場合は僅かに酒夕ホ湖の方式が実動しているにすぎないようである。この方法は活性汚泥法で処理した下水に石灰を加えて高一一以上にして下水中のアンモニウムイオンをアンモニアと水素イオンにし、この液を放散塔にかけて大気中にアンモニアガスとして追い出し、液の方は更に活性炭処理して色や臭をとるという方法である。この石灰や活性炭は再生して繰返使用するためにプロセスはかなり複雑なものになっている。この方法の問題点は多量の石灰が入るため、管路やピット壁にスケールが折出してトラブルの原因となること、冬期低温時には理論的に放散塔の効率が急激に低下することと、および折角アンモニア性窒素をアンモニアガスとして大気中に放散させても、これがまた雨や水面に落ちるとまたもとの状態になる恐れがあることであるといわれている。

この新しい方法は、これまでの活性汚泥法の曝気槽中に粉砕したゼオライトを入れて活性汚泥と共に曝気し、BODとアンモニア性窒素の除去を同時に行なわせ、処理済みの活性汚泥とゼオライトは脱水濾過し、ケーキにして焼却炉で焼却する。汚泥中の有機質は焼却され無機質は灰となる。一方ゼオライトは、焼却により再生されるので、循環使用するという方法である。その特徴をあげれば(1)これまでの活性汚泥法と組み合わせて操作ができる。(2)活性汚泥法では除去できなかったアンモニア性窒素が除去され、しかも活性汚泥法本来の効果は失われないこと。すなわちこれまで三次処理または高次処理といわれるものを、二次処理段階に圧縮して同時に行なわせたこと。(3)余剰汚泥とゼオライトの混合物である脱水ケーキを焼却すると活性汚泥は焼却され、同時にゼオライトは再生される。このゼオライトと灰の混合物は循環して再使用可能であり、特に炉過行程においてはこれらは助剤として働くから、石灰等の新たな助剤を必要としない。等である。

ゼオライトとしては、合成ゼオライトは品種も多く熱に対しても強いが値段が高く、付加価値の高い石油化学製品の触媒等に使われているが、このような利用には不向きである。

一方天然ゼオライトは安山岩や玄武岩の空隙中に結晶として産出するものとされており、その産出量は少量であったが、比較的近年、我が国に広く分布する白色を呈する凝灰岩の、ガラス質の部分により生じたゼオライトの産出が明らかになり、その種類は主にモルデナイト、クリノプチロライトに限られている。産出量は資源として利用するに十分な量が認められており、各地からこの種のゼオライトの産出が報告されている。しかし天然ゼオライトは不純物を含むために、どの産地のものでも一様に効力があるとは限らない。

最近国内における河川、湖、内海の水質は急激に悪化している。なかんずく陸水および海水の富栄養化に伴なう問題は琵琶湖、瀬戸内をはじめ、上水源として淀川を中心とした関西全域に深刻な問題をあたえている。この富栄養源は水に溶けたアンモニア性窒素とリン酸塩によるものとされている。すなわち、これら富栄養源によるプランクトンの異常発生が水中の溶存酸素の欠乏をおこし、魚貝類を死滅させる、いわゆる赤潮が内海、おこり、また湖では湖の異常発生をおこし、これが死滅した場合、表流水の溶存酸素を消費しBODを更に付加することになり、富栄養源を除去しない限り、これらの悪循環は容易に断ち切れない。

北から・南から　各地支部だより

新企画に一段と盛会

鶴嶋教授の講演を聞く

大阪東支部総会

過疎化のはげしい大阪の都心にあって、支部活動の顕著な大阪東支部では、昭和47年度総会を開き新しい流れに沿った組織づくりと取り組んでいる。

総会は、九月八日午後六時から天満橋松坂屋八階「竜門」に広瀬学長、樫本会長はじめ四十数名の多数出席者を得て盛大に開かれた。

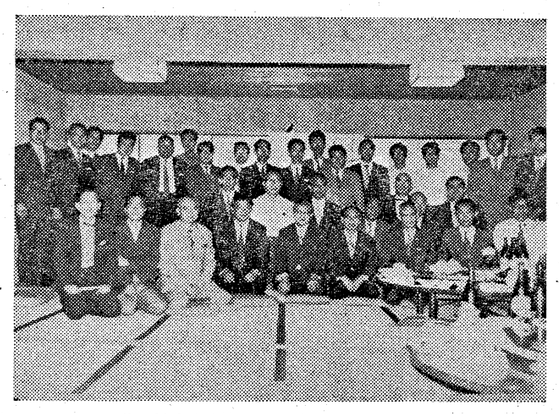
今回は、昨年11月27日の幹事会で、支部総会のあり方を協議"魅力ある総会"をモットーに企画検討の結果によるもので、講演・アトラクションなど盛り沢山の企画に、若い校友の参加も目立ち、一層新鮮味の増した総会となった。

総会は、熱情溢ふるる田中幸治幹事長の司会で開会、学生マンドリンクラブの学歌演奏のあと、薩摩卯一支部長の支部活動への協力を求める挨拶があり、総会議事にうつり、副支部長の選任が議せられた結果、蔵田広造氏（昭25大経広島屋本店代表取締役）を満場一致選出した。

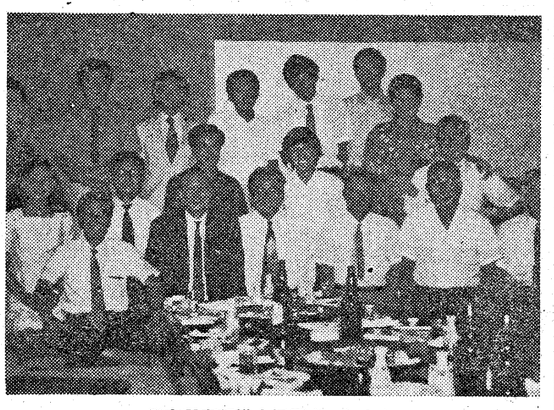
次に樫本会長から、校友名簿の発行、校友評議員候補者の推薦、本部役員の改選など、例年にない事業を推進している本部の近況をまた広瀬学長から母校の快挙、高松塚壁画古墳の発見、野球部の大学日本一といった一連の近況を各々報告された。

このあと、パンクラディシュ難民救済の支援で著名な鶴嶋雪嶺経済学部教授から、国際的視野にたった問題の解明がなされ、出席者に深い感銘を与えた。

懇親会は、植田完治名誉支部長の発声で乾杯、自己紹介のあとアトラクションに入り、マンドリンで奏でる憂の讃歌など興趣もり上がる中を、空くじなしの福引が行なわれ、特賞片野洋服店英国製服地（猪師猛氏当選）をはじめ、ビール30本、美々卯アベックお食事券等々の豪華景品に、時を忘れて交歓、学歌を斉唱のあと再会を約して散会したのは九時であった。



若い校友も参加して開かれた東支部総会



熊本県支部総会に集まった人々

新支部長に藤井計吾氏

熊本県支部総会

長年熊本県支部発展のため貢献してこられた内田義信支部長が去る三月死去せられ、支部長が欠となっていたが、去る八月十二日在熊在校生のコンパと機を一にして、市内銀杏通り割烹三駒において、校友参加者少数ではあったが新旧相共に心ゆくまで相語り相互の親睦を深めると共に、在校生に心からの激励を送った。

当日は新支部長及び副支部長の選出を行ない、和気あいあいの内に次期会合を約して午後九時万才三唱のうちに散会した。

なお当日出席者は次の通り。順序不同

新支部長　藤井計吾（推せん校友）新副支部長　渡辺実信、新副支部長　宇野正人、北里雪四郎、下村雄、堀川信雄、戸川範、斉藤猛、上野忠彦、芳崎賢一、堤治助、岩尾憲七、長崎登、柴崎敏博

現役も交えなごやかに

富山県支部総会

第五十三回富山県支部総会は、八月五日、二十三名の出席を得て、富山市中央通りの河合旅館で開催された。

井田宗明副支部長の開会宣言に始まり、安田倫蔵支部長の開会あいさつ、事業報告、会計報告のあと、役員改選に入ったが、改選は来年に持越しとなった。校友会員名簿作成の件、校友の近況報告などがあり懇親会に入った。

懇親会では、昭和二年卒の若林春男氏から現役の学生まで交え、終始なごやかに宴席が進み、とくに学生時代の思い出話に花が咲いた。なお事業報告の中で、この春三月に来演の関西大学グリークラブ富山コンサートのつどいについて、現役学生から感謝のあいさつがあった。また校友会長からの祝電の披露も行なわれた。

四十七年度役員は次のとおり

▽支部長　安田倫蔵（昭9卒）▽副支部長　井内宗明（昭12卒）▽幹事長　延谷謙二（昭20卒）▽事務局長　立花端敏（昭41卒）

旧交を暖める

13年専一商の同窓会

昭和十三年専門部一部商業学科卒業生の同窓会は、七月一日午後六時から大阪南の料亭「桂」に十八名が参加して開かれ、真夏の夜の暑さを忘れて、旧交を暖め、出席者は次のとおり。

安西岩重　井上勇　遠藤健治郎　尾崎正弘　小林和夫　高村藤光　中章　野口大二郎　八田一夫　肥田保　平山直人　宮本嘉蔵　渋谷喜章　村山正純　山根信次　山内明　山本利治　和田雄次郎

恩師を囲んで懇親会

大阪銀行千里会

大阪銀行千里会は、去る八月二十三日午後六時半から南区「田舎そば」において、今年度新入行員六名の歓迎会を兼ねて懇親会を開催した。

当日は、かねて会員から要望の強かった"恩師を囲んで"の計画が実現し、植野郁太教授列席のもと会員二十数名が参加して盛大に行なわれた。

はじめに植野教授からご挨拶を兼ね母校の近況、特に最近の学生の動向等について報告をいただき、続いて懇親会に入った。新入会員はじめ参加者全員の自己紹介をかねたスピーチや、恩師を囲んで学生時代の思い出話などにぎやかに歓談し、久し振りに楽しい一時を過した。

最後に当会々長、幹事の改選をきめ、母校の隆盛を念願しつつ午後九時すぎ散会した。

洲本市長に佐野豊氏

佐野豊氏（昭13専二法）は、八月に行なわれた兵庫県洲本市長選に当選された。

氏は昭和九年神戸市役所勤務、二十二年退職、同年兵庫県庁勤務、三十年淡路福祉事務所、四十二年淡路福祉事務所長、四十五年淡路福祉事務所長などを歴任し、四十七年六月退職。

野球少尉殿のふかなさけ

「初年兵」教官殿が、お呼びだ」

班長の声にドキッとした。学徒出陣三日目の夜だ。高射砲陣地・大阪福島中隊の消灯ラッパも、すでに鳴り終わり、幹部候補生試験のための自習時間。軍人勅諭、作戦要務令の暗誦中だったグアム島生残り槙井さんで浮き彫りされた"戦陣訓"は、なぜか今く無視されていた。班長の三歩あとに続く心はおだやかでない。厠＝カワヤ・便所の軍隊用語＝への途中で欠礼したのではないか、オドオドしたまま、教官殿、肥下光次郎見習士官殿の居室へ。

「関大はどうなった。野球部はどうしているか」の呼びかけ。名一塁手・豪打の肥下さんだ。「幹候」指揮官の項目をよく暗記しておけ。軍隊の試験は教典通り書くこと。漢字は漢字、送りがなも、そのままに…。それより、このアルバムを見てくれ。紅茶を飲めウイスキーを、もっと入れて」。

写真は野球部のものばかり。疑心もはれて、胃袋はグイグイとアルコールを吸収する。師走の兵庭を千鳥足。内務班に帰える。そこには不安顔の班長が待っていた。人間の表情が、これぐらい急激に変化するのを見たことがない。怒声とビンタが同時に襲来してきた。こども漫画でしか知らない"青い星"が、顔の左右に飛び散った。

年明けて少尉に任官される。結婚されたのか、確か「町田」姓を名のられる。直ちに、船舶高射砲の少隊長として南下された。中隊の休日には、兵舎前で必ず野球バットをふっておられた教官殿。みんなは"野球少尉殿"と呼んでいた先輩。その後の消息は全く知らない。校友名簿には物故者となっているが……。

戦中戦後　関大出てから30年！〈4〉

上野勝也

バシー海峡・波間の豪傑節

高射砲兵甲種幹部候補生から第三期特別操縦見習士官に転出する浅間の噴煙をあおぎみる軽井沢高原でのグライダーの教育。熊谷谷飛行学校での赤トンボ＝複葉の初等練習機をこう呼んだ＝訓練。…を経て十九年十月十日。南下の輸送船団・江尻丸五千トンにあり。船団は二十四隻が博多を出る。現在十八隻とか。前夜の台風も一過し、朝のバシー海峡は真っ青だ。遥かに比島サンフェルナンドの陸地の緑が目にしみる。しかし、船ポック＝木綿の浮袋＝をつけ、軍刀を背にして足から飛び込む。

目をあげると波頭は、まだ足下にある。バシヤンの水音も高く南の海底へ。両足を大きくカキ込んだが浮揚も大変だ。一、二回海水をガッポリ飲んで海面に出る。三隻の"海水浴"。壮快であった。だが、友軍機の敵潜水艦を求めての爆雷投下がグイグイとはらわたにこたえるのは無気味だ。後ろから蛮声がした。関大・バスケット部のマネージャ、永田為之見習士官である。その特徴をあげれば(1)これまでの活性汚泥法と組み合わせて操作ができる。(2)活性汚泥法では除去できなかったアンモニア性窒素が除去され、しかも活性汚泥法本来の効果は失われないこと。すなわちこれまで三次処理または高次処理といわれるものを、二次処理段階に圧縮して同時に行なわせたこと。(3)余剰汚泥とゼオライトの混合物である脱水ケーキを焼却すると活性汚泥は焼却され、同時にゼオライトは再生される。このゼオライトと灰の混合物は循環して再使用可能であり、特に炉過行程においてはこれらは助剤として働くから、石灰等の新たな助剤を必要としない。等である。

ゼオライトとしては、合成ゼオライトは品種も多く熱に対しても強いが値段が高く、付加価値の高い石油化学製品の触媒等に使われているが、このような利用には不向きである。

一方天然ゼオライトは安山岩や玄武岩の空隙中に結晶として産出するものとされており、その産出量は少量であったが、比較的近年、我が国に広く分布する白色を呈する凝灰岩の、ガラス質の部分により生じたゼオライトの産出が明らかになり、その種類は主にモルデナイト、クリノプチロライトに限られている。産出量は資源として利用するに十分な量が認められており、各地からこの種のゼオライトの産出が報告されている。しかし天然ゼオライトは不純物を含むために、どの産地のものでも一様に効力があるとは限らない。

最近国内における河川、湖、内海の水質は急激に悪化している。なかんずく陸水および海水の富栄養化に伴なう問題は琵琶湖、瀬戸内をはじめ、上水源として淀川を中心とした関西全域に深刻な問題をあたえている。この富栄養源は水に溶けたアンモニア性窒素とリン酸塩によるものとされている。すなわち、これら富栄養源によるプランクトンの異常発生が水中の溶存酸素の欠乏をおこし、魚貝類を死滅させる、いわゆる赤潮が内海、おこり、また湖では湖の異常発生をおこし、これが死滅した場合、表流水の溶存酸素を消費しBODを更に付加することになり、富栄養源を除去しない限り、これらの悪循環は容易に断ち切れない。

アンモニア性窒素はこれまでの下水処理のうち、高級な活性汚泥法や凝集剤、活性炭等を用いる方法でも、なかなか除去されず、まことに困難となっている。わが国の下水処理法は七〇％が活性汚泥法であり、今後ともこれが主流となっているから、下水道の整備計画が急速に完備したとしても、富栄養化に関する問題は依然として残り、むしろ増加するようにも思える。

下水中の富栄養源を除去するプロセスは意外に少なくて、大量処理の場合は僅かに酒夕ホ湖の方式が実動しているにすぎないようである。この方法は活性汚泥法で処理した下水に石灰を加えて高一一以上にして下水中のアンモニウムイオンをアンモニアと水素イオンにし、この液を放散塔にかけて大気中にアンモニアガスとして追い出し、液の方は更に活性炭処理して色や臭をとるという方法である。この石灰や活性炭は再生して繰返使用するためにプロセスはかなり複雑なものになっている。この方法の問題点は多量の石灰が入るため、管路やピット壁にスケールが折出してトラブルの原因となること、冬期低温時には理論的に放散塔の効率が急激に低下することと、および折角アンモニア性窒素をアンモニアガスとして大気中に放散させても、これがまた雨や水面に落ちるとまたもとの状態になる恐れがあることであるといわれている。

どしどし寄稿、投稿を

校友のご意見をお寄せ下さい

石川支部から本紙に対し"もっと興味をもって読めるものにするよう"との要望が寄せられました（8月号2面記事）。積極的なご意見として部員一同感謝いたしております。

本紙「関大」は校友会の機関紙として、母校と校友、また校友相互のかけ橋としての役割を持っております。そのため、できるだけ広く記事を集め、また校友に親しんでもらえ、喜んでいただけるようにという考えで毎号編集していますが、私どもとしても常に今ひとつの感じがいたします。それは、広報部の人達がそれぞれ本業を持っているため、思うように取材ができないためです。

現在毎月一回部会を開いて次号の編集、企画等の打ち合わせを行なっていますが、もっと校友からの寄稿、投稿がほしいというのが一致した希望であります。現在では、2面に掲さしている"各地支部だより"が校友から寄せられる唯一つのたよりです。

家族の方々にも読んでもらえるものにまでするのは、機関紙の性格から可成り工夫のいるところと考えますが、校友各位のお知恵も拝借して、できるだけ親しみのもてる紙面にしていきたいと思います。そのためにも、皆さまからの忌憚のないご意見と合わせて興味ある記事をどしどし寄せていただけるようお願いします。

（広報部長・藤田令允）

大島特許事務所
所主　弁理士　大島武夫
弁理士　大島一公
弁理士　藤本昇
大阪市西区江戸堀北通二丁目二十五番地（とみたビル）
電話（四四一）二一〇〇・一三九四（四四三）六一五〇

ブンガワン・ソロの"鯉の滝のぼり"

シャワ・スラカルタで"七直協"の飛行訓練はじまる。同地は王侯ソロの国、インドネシアの民族歌、ブンガワン・ソロの流れを眼下に見ての石旋回である。訓練学生は七十人の見習士官。ほとんどが学徒出陣兵である。つまり兵舎は東・西六大学をはじめ全国学生の"梁山泊"でもある。灼熱の空での操縦管のあとは、夜ともなれば南十字星を真上にての語り合い。航空ガソリンでも口にしょうものならば「都の西北」が出、「陸の王者」が対抗する。となれば千陵名物「鯉の滝のぼり」で怒涛の拍手となり、鬼の隊長さんの怒声で静寂。椰子の葉ずれの音だけとなる。

古都だけあって町並も落ちついただたずまい。人情もこまやかそうだ。現地小学生の慰問をうけるクリクリっとした目を動し「船頭かわいや」や「枯れすすき」を歌い踊ってくれた。軍政部の日本語教育が徹底しているのだ。

しかし永田君が憤慨した。「あんな歌を教えるなど怪からん。俺が指導してやる」。さっそく、片言のインドネシヤ語ではじめる。「ブンガワンソロ・と淀川、サマサマね＝同じだの意味＝」ともにバークラス＝立派の意味だ＝」彼は、逍遥歌第三節の「春の葉繁れる淀川に…」を教えているのだ。

その後、ソロの町で逍遥歌が流れたことは聞かない。ただ、彼は「ブンガワン・ソロ」を現地語で歌い出したことは確かだ。

寒川労働コンサルタント事務所

所長　寒川喜一

事務所　大阪市西区阿波座上通一ノ二七（新松岡ビル三階）
住所　（地下鉄3号線本町駅「旧信濃橋」南出入口前）
電話　大阪（〇六）五四一―〇六六〇（代表）
大阪市西区南堀江通五―二岡田マンション
電話　大阪（〇六）五四一―五〇九五番

野村吉治氏（昭8専二法・箕面支部長・代議員）は、八月二十日の箕面市議改選に伴う役員改選の結果、九月五日、箕面市議会議長に就任した。（箕面支部報）

神戸トヨペット株式会社
本社　神戸市兵庫区水木通2丁目3番地　☎(078)576－5001

不動産の売買
賃貸仲介管理
京阪神不動産株式会社
取締役社長　谷田俊二郎
本社　大阪市東区瓦町5丁目　御堂筋瓦町ビル
電話（202）7331代表

振津運送株式会社
代表取締役　振津清
本社　大阪市大正区北泉尾町三丁目五六番地
電話　大阪　〇六（五五一）一六三一番（会計）
現業所　大阪市大正区泉尾浜通り三丁目三六番地
電話大阪〇六（五五二）五四五一～五番（業務部）
神戸営業所　電話　神戸　〇七八（四四一）三〇八一～三番

KS
塩化マグネシウム
フレークニガリ
臭素及臭素塩類
臭化水素酸
硫酸マグネシウム
苦汁加里塩
軽質炭酸マグネシウム
水酸化マグネシウム
炭酸マグネシヤ成型保温材
ゴム用炭酸マグネシヤ
ホワイトカーボン
炭酸カルシウム
ソーダ灰
硅酸曹達
塩化カルシウム
化学石膏
其他化学工業薬品全般
大阪苦汁商工株式会社
取締役社長　木村弥策
大阪市東区北浜1の6（野村ビル内）
TEL（231）3581～5番

3シーズン 完全優勝へ

関六秋季リーグ戦 快調のスタート

関大の3シーズン連続完全優勝の夢をのせて、関西六大学野球秋季リーグ戦は開幕した。対大院大1回戦は延長十四回にようやく突き放すという苦戦だった。だが2回戦は主軸打者の鮮やかな先制の長打攻勢であっさり勝負を決めた。エースの山口高は2試合連続の完封勝。早くもエンジン全開といったところである。

この大院大戦は現在の関大の姿を象徴的に表わしていた。1回戦に手こずった原因は打線の決定打不足である。13安打と10四死球を得ながら、3時間9分もかかってようやく勝った。"主将"のスタートとしては何とも思いがけない結果だった。だが、ここで忘れてならないのは相変わらずのディフェンスの固さである。失策はゼロ。2併殺も打ち上がり制球の不安定だった山口高を大きく支えた。相手投手の予想外の力投があって延長戦にもつれ込んだものの"守りの関大"は今季も健在なことを証明した。ひいき目に見れば"チャンピオン"という精神的重圧が打線の歯車を狂わせてしまったのかもしれない。しかし、大学日本一を実現させた固い守りはいささかもゆるがなかった。

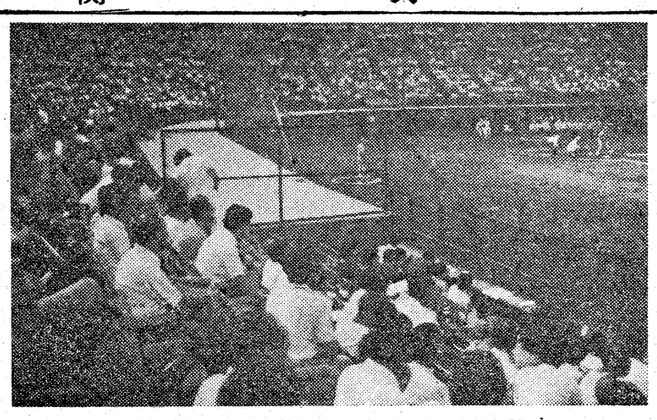
この1回戦は昨シーズンまでの関大をあらためて思い出させてくれるような試合だった。ところが2回戦は"新生関大"を強く印象づけてくれた。さらにたくましく成長した姿である。山口円の中前打に始まる長沢、橋本等の連続長打はすばらしかった。かつてみたことのないほど迫力に富んだ攻撃ぶりだった。これまでは、四死球とか失策にたくみにつける、すきのない野球が売りものだった。そこへパワー・アップ"である。

山口円はもともとリーグを代表する好打者である。大学選手権では優勝を決めるサヨナラ打を打ち、日米大学選手権でも途中から正遊選手の座を奪い取った。左右に打ち分けるたくみなバッティングはすばらしい素質を物語る。だが長沢、橋本等はこれまで期待通りの働きをしていたとはいえないものである。どこか、もろさを感じさせた二人のバッティングはどうだ。1回戦のような気負いもなく、実力をフルに発揮した。目に見えない何かを二人は身につけた。それは大学日本一の自信である。

彼らばかりではない。山崎、川内、光藤、樽本、田中らそれぞれがこの自信で自分の力を存分に出し切れるようになった。あらゆるプレーにゆとりさえ見られるのである。

そして大黒柱の山口高。彼はナインの誰よりも強い自信を身につけた。大学選手権の好投はもちろん、日米大学選手権で貴重な体験をしたからだ。パワーのある米国選手を相手に3勝1敗の好成績を残した。完封1試合もある。山口高はこういう。「これまでパワーのある打者はあまり好きじゃなかった。でもこれからはうまくやれる」。それはピッチングの幅が広くなったからである。もちろんベースとなるのは日本一の速球である。その上にきわどいコースをつく制球力と、緩急の差。「カブラス技」へ、山口高はさらに大きくはばたこうとしている。最多勝記録は39勝と伸びた。前人未踏の記録へと力強く進んでくれることだろう。

投攻守いずれも充実しきった関大に対し、同大、近大は雪辱をねらい、大商大も強打線で山口高の攻略をひそかにねらう。二ヵ月にわたるロングランである。調子の波も必ずある。そして最も恐れる気のゆるみ。しかしこれらの"内外の敵"をきっと打破してくれてであろう。昨春の関学1回戦以来続く破竹の24連勝。3シーズン連続の全勝優勝という偉業が目標である。巧みな用兵をみせる名将達摩総監督と新任の木村監督の指揮のもとに、慢心を戒め一丸となって突き進んでもらいたい。



日生球場に3000名の観衆を集めた優勝記念早大招待試合

山口高が13三振

九回1―1で引き分け

早大迎え記念試合

体育会野球部主催、日刊スポーツ新聞社後援の全日本大学野球選手権優勝記念招待試合は、東京六大学野球の雄・早稲田大学を迎えて、八月二十九日午後六時半から日生球場に三千名の観衆を集めて行なわれた。

関大 0000000010=1
早大 0000000100=1

両校とも秋のリーグ戦を目前にしているだけに力のこもった一戦となった。

六回まで早大・佐藤に無安打に押えられていた関大は、七回、裏先頭の山口円が左翼に二塁打、長沢三振、橋本も浅い中飛でチャンスはついえたかと思われたが、川内が2―3から内角速球につまりながら遊撃手の差し出すグラブをわずかに越えてポトリと落ちるタイムリーで1点を先取った。

一方関大のエース山口高は最初からとばし、七回までヒット一本を許しただけで毎回三振の力投、このまま逃げ切るかと思われたが早大がねばり、八回表、先頭の鈴木が左前打して、川口が送り、次打者も左前にライナー、一死一、三塁。投手佐藤の代打渡辺は2―3後中堅に犠飛、同点においついた。九回は同チームともチャンスをつかんだが後続凡退で九回打ち切り引き分けに終った。

なお、山口高は早大から13三振を奪った。

釜山空港で釜山大学剣道部の出迎えをうける一行

シャワーのように雨が降る

探検部アマゾン踏査　マウナス中間報告

世界で数少なくなった未開地で著名なブラジル、アマゾン河上流域の北西部、ベネズエラ国境に近いネグロ河上流域の土着少数民族ヤノママ族の生活する地域一帯を調査探検するため、三月下旬先発および5月下旬後発を送り出した訳である。現在隊はアマゾン河中流のマナウスにベースを置き、ブラジルFUNAI（インデオ保護局）の援助を得て活動を続けている。

次はマナウスからの報告である。

「兎角暑く、明け方の最低気温でさへ26度ある。湿度はいつも80パーセントを越えている。こういう関係か、町の人も午前11時から午後2時まで仕事は休み。乾期に入っているというのに砂など吹き飛んでしまうような勢いで雨が降るシャワーの栓を全開したようなものだ。雨が降ると船も河の端に止まり航行中止。

ここで一番偉いゼネラルは威張っているが、我々と行動を共にしたお互い友達みたいなものである。彼はいつまでたっても我々の名前を覚えられないで「オイ、ジャポン、ジャポン」と呼ぶ。おかげで我々は日本を代表している気持ちになる。

奥地に入って退屈したらガキどもを集めて、パンツ一つで水泳をやる。大人も見物しているから面白い。しかしパンツだと飛び込んだ拍子にぬげるので困る。今度入るときは水泳パンツを持って行くからピラニヤと勝負してやるつもりである。

町には美しいセニョリータが多いが、我々は三人共生来の勉強好き、毎朝毎晩気が狂うほどの勉強ぶりである。しかし、たまには若いセニョリータと一緒に歌など唄うのもいいものである。

我々は次回調査の準備に現在かかっている。9月20日ごろ奥地に入る予定である。今度の地域は過去に日本の大学隊が入れなかった所であるし、本格的な探検活動を展開すべく全員元気で張切っている成果を楽しみにして下さい。

（松本洋隊員より）

グァム島遠征記

アメリカンフットボール部

東京国際空港を飛び立って約三時間、グァム島アガナ空港へ着いたのは、夜の十一時頃だった。我々が飛行機からおりてくると、空港の前には、グァム大学、ケネディ高校の学生たちが、たくさん出迎えに来てくれていた。そして、ひとりずつ、ハイビスカスのレイやペナントをプレゼントしてくれた。仲々気持ちの良い歓迎だった。

その夜は、ケネディ高校に宿をとり翌日の試合にそなえてすぐ床についた。

翌日、朝食をグァム大学の食堂でとり、午後からは、在島の日本人の方の招待ということで、浜辺の昼食会に出席した。バスで、海岸べりの公園へついた我々は、みんな、海の美しさにみとれていた。日本では見ることのできない、すきとおった水、そしてまっ白い砂浜だった。その海のほとりで食べるおにぎりやサンドウィッチはまさに最高の味だった。

現地の日本人の方々に励まされ、必ず勝ってみせます、と約束をし、バスで宿舎に帰り、試合の準備をした。宿舎のそばのグランドで少しウォーミングアップをしてから、バスでフットボール場に着くと、もう見物客がたくさん来ていて、照明灯に照らされた芝が美しい、なかなか良いグランドだった。

第一ゲームは、関大一高がケネディ高校を15対0で破り、兄貴格の関大としても負けられぬ試合となった。グァム大学は南国のチームらしく、俊敏でファイトがあった。

ゲームは、押しつ押されつの大接戦で、約五千人の観衆を大いにわかした。グァム大学は、ミニスカートの女の子を先頭に、大歓声の応援。しかし中に日本びいきの観衆もいて"レッゴー・カンサイ"をくり返し応援してくれていた。結局、我が関西大学が得意のパスプレーで逆転勝ちし、関大スピリットをグァム島の人々に見せつけたのだった。

試合を終えて、一同マクドナルドのレストランで、交歓会を開いた。ハンバーガーを食べながら、かたことの英語で話がはずむ。選手のサインを集める者、帽子やシャツを交換する者、ひたすらハンバーガーを食べる者、夜おそくまで楽しい時間がつづいた。

次の朝いよいよたのしみにしていた観光や海水浴の日、と胸をおどらせて外に出てみると何と、大雨。一同ちょっとがっかりした顔でバスに乗り、島をひとめぐり。船にのって、ガラス張りの船底から美しいサンゴ礁をながめ、雨の恋人岬からうらめしそうに海を見ていた。

夜は外出自由となり、みんなおみやげを買いにあちらこちらとらばっていった。酒、たばこ、アロハ、香水、スパイク等がばんばつばいに買っていた。そして、グアム島を去る朝、昨日とはうって変わっての日本晴れ、いやグアム晴れだった。

関大スピリットを、そしてまた、ジャパンフットボールの精神を、グァム島に残し、我々は、この遠征の意義を、深くかみしめながら日本へ帰って行った。

（主将・大司豊一）

三大学と親善試合

訪韓剣道使節団が交歓

昭和四十七年八月二十三日午前十一時五十分、来住団長、大鳥副団長、大野師範、名剣監督を引率者に二十一名の訪韓剣道親善使節団は、校友会、体育会応援団の盛大な見送りをうけ伊丹を飛びたった。日本上空を飛ぶこと一時間、そこはもう釜山の町であった。空港を出ると釜山大学の歓迎が待っていた。

空港で釜山大学生部長らの歓迎式典のあと、スクールバスに乗ってニュー東来ホテルに招かれ、そこで昼食をとった。

いよいよ釜山大学との親善試合が始まる。韓国で武道関係の国際試合が初めてということもあって試合場にはたくさんの見物人が拍手で我々を迎えてくれた。試合は十六人戦で行ない、前半は相手方の姿剣と韓国選手の大歓声に圧倒されがちでリードされたが、後半奮起し一番逆転で辛勝した。戦績は八勝六敗二分。

その夜は釜山大学の学生諸君が焼肉パーティを開いてくれ、学生同志身ぶり手ぶりを入れたかたことの英語で、一夜のだんらんをもった。

明けて八月二十四日、今回の訪韓に対し骨を折ってくれた嶺南大学のスクールバスにより大邱へ行く途中、慶州各地を観光させてもらった。仏国寺、通度寺、公園寺などさすがに韓国の古い歴史を物語っている。「この地よりはるか昔に日本に文化が伝わって来たのだなあ」と感がいにふけっていた。

明けて二十五日、盛大に嶺南大学との第一回定期戦が行なわれた。ここでの試合はテレビ放送されるのでぜひとも勝ちたかったが前半までも気力に圧倒されがちで四回生の逆転によりまたもや八勝六敗二分で辛勝であった。夜は盛大な総長主催のレセプションに招待された。

八月二十六日ソウルへ。見渡す限りどこまでもまっすぐな高速道路を走ること四時間、韓国の首都ソウルに到着した。韓国料理はたいへん辛く、舌がしびれてしばらく口がきけない者もいた位で、皆料理を前にして空腹を感じながら食事がはかどらず閉口していた。そこで気をきかせてくれて、久しぶりの日本料理、鰻丼をごちそうになった。皆あっというまに丼の底を見せた。

三時すぎよりの成均館大学との親善試合は九勝五敗一分、これでかろうじて三戦全勝であった。

その夜もレセプションに招待された。ここでもそれまでの学生たちと同じように、かたことの英語でバッチの交換や対戦相手と乾杯をし、すぐうちとけあっていた。

八月二十七日午後一時三十分、我が関西大学剣道部は名残りを残してソウルの空を一路大阪へと飛びたった。見送りに来てくれた韓国剣道会の人達、学生達と来年大阪での再会を誓い合って…。

（法四・主務・坂本晴生）

変化の中の基本姿勢とは

第10回リーダースキャンプ

関西大学体育会は、去る七月三十一日、八月一、二日の三日間、伊勢二見浦において各クラブ次期リーダーを対象にリーダースキャンプを開催した。

このリーダースキャンプも今年で十回目を迎えたのであるが、現状を見るに内外の情勢の急激な変化に伴い、体育会も次第に変化しつつある。しかし、ここにおいてその変化の中で自己の責任なり立場というものまで忘れ、徒らに時流に流されてはいけない。集団生活を営む限り、各々は各々の役割を果たさなければならない。そういった意味で、今回のリーキャンはクラブのリーダーとして各々の本来の立場、役割を明確化した上その認識の下にこれからの活動方針をどのように決定してゆくかという基本姿勢に帰って話し合った。

キャンプには理事長はじめ学生部長、その他大勢の学校関係者また応援団、他大学の方々の出席をいただいた。特に、社会学部広田教授には「小集団の中でのリーダーシップ」というテーマで講演をお願いし、その講演の中でクラブのリーダーは下級生をひきつけるだけの魅力こそが必要であり、その具体的な条件である企画力、判断力、意志力、識見、説得力、性格等に関し逐一詳しく説明された。また、体育課の清水先輩には「スポーツマンとしての心構え」というテーマでお願いし、体験から今と昔を対比し、基礎体力の必要性等について話していただいた。

しかし、その後の三つの分科会討論においては、司会の不手際、資料の不足等もあって、それ程活発な意見も出ず、司会の一方的説明に終わってしまい、十分な討議はなされなかった。

以上が今回のリーキャンの概要であるが、リーキャン以後、これからの問題として、リーダーはスポーツマンとしての個人と自治組織の中での個人という二つの大きな側面をはっきりと認識し、下級生の指導また自己管理をしていくことが認識されなければ、課外活動としての本来のクラブとしてこれからの発展は望まれないであろう。

探検部洞窟班

地底三百米に

今夏、探検部では洞窟、山岳、川下り、海底（スキンダイビング）などの各パートに分かれて合宿活動を行なった。どの合宿も無事終えることができ、報告書の作成やら、次の活動の準備やらで忙がしい生活を送っている今日このごろです。今回は洞窟合宿の報告をさせていただく。

洞窟パートは今夏も新潟県青海町にあるマイコミ平の洞窟群調査を行なった。総勢六名の小パーティながら十分にトレーニングを積んだ精鋭ぞろい、思いきり活動ができた。

活動の主な目的は、昨年の秋に発見した新洞（白い石灰岩でできており、連の花が開いたような洞口の形より白蓮洞と命名）と、今春発見した新洞の二洞であった。

まず白蓮洞であるが、これは三年前その謎が解明され大きな話題を呼んだ、千里洞の東約五百㍍上部にある。ドリーネは小さく洞口もさして大きくないため、マイコミ平洞窟群の中にあっては、めずらしく陽性な洞窟であった。しかし、いざ探検を開始するとなるとやはり不安を感じざるを得なかった。暗闇に銀色に輝くワイヤー梯子が降ろされ、第一歩が踏み下された時、今だかつて誰も足を踏み入れられたことのない未知への挑戦が開始されるのである。

七月二十二日に活動を始め八月二日ついに我々は地底三百㍍地点に達したのである。残念であるが人員不足のため最深部アタックは諦めざるを得なかった。洞内写真、測量を行なって八月二日白蓮洞活動に終止符を打った。

この間にも我々は八千八個あるといわれるマイコミ平のドリーネの位置確認を行ない、以前よりも正確な位置を地図に記すことができた。これは大きな成果であり、今後の活動にプラスするであろう。

（杉江）

第20回サマースクーリング

二部英語研究部が徳島県阿南中学で

私たちのクラブ（E・S・S）がサマースクーリングをはじめてから今年で二十回目となった。思えば昭和十八年に第一回を小豆島で実施してから、よくぞここまでと感慨を覚えずにはいられない。

この活動は都会をはなれて、地方の中学生を対象に、部員が先生となり英語を指導することが主となっている。今年は八月六日から十三日まで徳島県阿南市立阿南中学校で実施された。また新しい大きな学校で生徒は約千人、教職員の中には校友も二人おられるそうだ。また、当校出身の関大生が教育実習にくることもあるそうだ。

校長先生の話では、部員一同服装態度も紳士的で、こういう人達なら中学生をまかしておけると思ったということである。

関大生側は、部長福井克彦君ほか約三十名が六月頃から準備にかかり、中学側との打ち合わせ、教材の製作、指導法の研究と綿密な計画をたてて用意してきた。授業は午前中で、二時間を英語（リーダー・会話）と、三時間目をレクリエーションとして一週間おこなうのである。勤務の都合で、前半または後半に参加という人もある。今回は二十回にあたるのでOBの山田昌三氏、国富武羅夫氏（家族同伴で）が参加された。

適当な宿舎をみつけるのに例年苦心するのだが、今回はこれまでになく整った旅館をあっせんしてもらった。かわったことといえば、男子学生が毎朝ヘヤーセットに時間をかけることが目立ち、当世かなという感じがした。しかし、きょうの生徒の出席ぐあいはどうかなと気にしつつ、少しの間でもおしんで指導案をねっている姿は真剣そのものである。午後から夜にかけてミーティングやスピーチが計画されていて、全くハード・スケジュールである。

今回は、アメリカの大学生三人が後半から参加した。彼女らは夏休み中京都大学へセミナーのために来ていたのを、部員が交渉して参加してもらったのである。担当学生が彼女らと共に教室にのぞんだので中学生達は会話の学習にいそう興味をもったようだ。

部員一同も彼女たちをかこんで、グループディスカッションなどをやり、会話力の向上につとめていた。中学校へは地元の新聞社からも取材に来てくれた。学生達の旅館での生活も英語使用を原則としているが、全般に会話の力も向上しているようでうれしく思った。顧問の星野教授、学生課の小西氏共に指導に来てくださった。熱心に取りくんだこのサマースクーリングを契機に、今後の部活動を一段と活気あるものにしてもらいたいと切望してやまない。

（初代部長・校友会広報部・岩城富子）

アメリカの女子学生も参加した第20回サマースクーリング

書斎の窓 ―29―

中農　晶三

野坂昭如が、八月末の朝日新聞で、CM擁護論を一席ぶっていた。彼一流の皮肉な表現で、いっていること自体、なにやらうさんくさい匂いがするのだが、とにもかくにも擁護論である。つまり、テレビは誤った情報、毒にも薬にもならぬ情報を流すもの――ぼく自身、その意見にいささか賛成だが――という判断が前提にあり、テレビの毒をCMが中和するというのだ。彼にいわせると、CMは元来いかがわしく、うさんくさいもので、CM制作者はテレビの日陰者、雷波乞食である。視聴者がテレビの番組にふりまわされていると、一瞬CMが割りこんできて、さめた気持になる。それは「CM制作者のいかがわしさ、うさんくささ、いいかえればじつ人間的な色合い」をCMに感じとって、視聴者は番組全体にさめた気持をとりもどすことができる。「まさに地獄でCMであろう」

そういわれてみれば、そういう感じ方もあるのかなァと思うのだけれど、もうひとつぼくにはしっくりこない。だいたい、CM制作者のいかがわしさ、うさんくささが、どうして人間的な色合いになるのか、よくわからない。そこが、野坂独特の感覚である。

「日陰者」好みとでもいおうか。かつての野坂は、CMの初期、CMを制作することによって、糊口をしのいできた。そのころのテレビ局内部での、CM制作者の日陰者意識が、いまだに彼の内部に尾をひいている。そのような日陰者意識を、逆手にとるのは、彼が好んで使う手である。だが、現代のCM制作者に、いったい彼がいうような日陰者意識があるだろうか。あればたいへん結構なことだが、若者の間では花形職業であり、本人はスター気取りである。そして、番組と同じように、視聴者の鼻づらをひきまわして、とくとくとしている。「大衆操作の快感」を公然と口にするバカさえいる。CづM制作者は、職業としての劣等感をもつ必要はないが、視聴者に対しては、企業の代弁者として心やさしい日陰者であったほうがよい。

野坂がいいたいのは「テレビという悪役に立向う、CMは正義の味方のような一面」があって、白熱の一時間の討論が、三十秒のCMでけしとんでしまう効用である。これこそ、彼が好む弱者の論理である。そのために、CMのいかがわしさ、うさんくさ、いいかえれば大いに人間的な色合いが覚醒に役立つというのだが、一般庶民には、それとは別に、CMの「いかがわしさ、うさんくさ」に往生する消費者の論理もある。

最近、地婦連が公取委の依頼によって行なった歯みがき、洗剤、化粧品の表示、広告の調査結果を発表した。それによると、ヒフ、くちびるに栄養を与える」「小ジワを防ぐ」「ニキビ、シミ、ソバカスを防ぐ」などが、すべて許可されている。残念ながらぼくは、小ジワのないア街（ワシントン）の小柄なお中年女性に、いまだお目にかかったことがない。これはぼくだけの不運だろうか。消費者の頼みの綱である公取委がこれではなはだ困るのだ。

だが、アメリカでは事情がちがう。日本の公取委に当るFTC（連邦取引委員会）が、消費者保護のために、まことに苛烈な広告規制を行ない、広告業界をふるえあがらせている。かつてFTCを眠れる機関だと非難した弁護士カーク・パトリックは、七〇年のはじめに委員長に就任してから、FTCは血気さかんな青年法律家の拠点となった。消費者団体をはじめ国会議員、FTCの職員たちのFTCは、強化の要望にそって、ニクソン大統領が、カーク・パトリックを委員長に任命してから、それはもっぱ行動的で、苛酷な政府機関にヘンシンした。彼は委員長に就任のとき「ペンシルバニア街（ワシントン）の小柄なお十二通りの身体づくりをしまだれがこのような誇大な表示を許可しているかといえば、それは公取委である。今年の二月に公取委は、化粧品の「誇大宣伝を締出すために」キャッチフレーズ基準を定めたが「毛髪、大統領が、カーク・パトリックを委員長に任命してから、それはもっぱ行動的で、苛酷な政府機関にヘンシンした。彼は委員長に就任のとき「ペンシルバニア街（ワシントン）の小柄なお十二通りの身体づくりをしまの大手広告主にも、同様の資料の提出を要求した。虚偽・誇大広告を攻撃し、コルゲート社のラビッド・シェーブ（刃）で、紙やすりを剥れるというのはウソである。ジェリトール（造皿剤）が、疲れた皿をいやすというのはウソである、といった一連の告発を行なった。それどころか、たとえCMの主張がウソでなくても「ワンダーパンは、無料で時間を提供するよう要請している。FTCがFTCの広告である。FTCはFCC（連邦電波管理委員会）に、CMに反論したいと希望するものに、無料で時間を提供するよう要請している。FTCがFTCの広告である。FTCはFCC（連邦電波管理委員会）に、CMに反論したいと希望するものに、無料で時間を提供するよう要請している。FTCがFTCの広告である。FTCはFCC（連邦電波管理委員会）に、CMに反論したいと希望するものに、無料で時間を提供するよう要請している。FTCがFTCの広

わしさ、うさんくさ」に往生する消費者の論理もある。

最近、地婦連が公取委の依頼によって行なった歯みがき、洗剤、化粧品の表示、広告の調査結果を発表した。それによると、ヒフ、くちびるに栄養を与える」「小ジワを防ぐ」「ニキビ、シミ、ソバカスを防ぐ」などが、すべて許可されている。残念ながらぼくは、小ジワのないア街（ワシントン）の小柄なお中年女性に、いまだお目にかかったことがない。これはぼくだけの不運だろうか。消費者の頼みの綱である公取委がこれではなはだ困るのだ。

だが、アメリカでは事情がちがう。日本の公取委に当るFTC（連邦取引委員会）が、消費者保護のために、まことに苛烈な広告規制を行ない、広告業界をふるえあがらせている。かつてFTCを眠れる機関だと非難した弁護士カーク・パトリックは、七〇年のはじめに委員長に就任してから、FTCは血気さかんな青年法律家の拠点となった。消費者団体をはじめ国会議員、FTCの職員たちのFTCは、強化の要望にそって、ニクソン大統領が、カーク・パトリックを委員長に任命してから、それはもっぱ行動的で、苛酷な政府機関にヘンシンした。彼は委員長に就任のとき「ペンシルバニア街（ワシントン）の小柄なお十二通りの身体づくりをしま

CMよ、ガンバラナクッチャ

相変らず氾濫している誇大広告

の大手広告主にも、同様の資料の提出を要求した。虚偽・誇大広告を攻撃し、コルゲート社のラビッド・シェーブ（刃）で、紙やすりを剥れるというのはウソである。ジェリトール（造皿剤）が、疲れた皿をいやすというのはウソである、といった一連の告発を行なった。それどころか、たとえCMの主張がウソでなくても「ワンダーパンは、無料で時間を提供するよう要請している。FTCがFTCの広

宝塚ファミリーランド
世界で始めての立体動物園や、650体の人形が歌い踊る〈世界はひとつ〉
大人形館、スリル満点のジェットコースターなど、楽しさがいっぱい！
阪急電車宝塚駅下車　入園料…200円・100円

パーラー アストリア
ASTORIA
コンパ、忘年会、その他各種パーテーをご予算に応じ承ります。
山下ビル株式会社
大阪市東区本町4丁目9番2号
〒541　電話(262)0665(代)
関西大学工学部機械工学科　3期生
代表取締役　山下修身

特許・商標・出願全般・審判事件
日・英・米・独・仏・伊・スイス・ベルギー
中近東・東南アジア諸国・韓国等取扱
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士　鈴木武夫（昭和五年　大法卒）
大阪市西区西長堀南通一丁目九番地　藤村ビル二階
（四ツ橋交叉点南50m東側　地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）
電話　大阪　〇六（五三二）七四三一～七四三四　七四三五（所長等）

各種硝子販売・工事請負
株式会社　大阪硝子店
代表取締役　佐々木廣
大阪市東区本町五丁目四
電話（二六二）三五三六―八番

Burroughs
電子計算機
会計機／加算機
ビジネス・フォーム
電子部品
アンコール・カーボン
システムを創造する
高千穂交易株式会社
取締役社長　鍵谷武雄
（本社）大阪市北区小松原町27（大阪富国生命ビル）
TEL 大阪（06）313―3381 大代

営業科目
化学陶磁器部・機械器具部
工事部（耐酸工事・タイル工事・サッシ工事・貸ビル・貸マンション）
ヤノシゲ株式会社
取締役社長　矢野文雄
大阪市北区梅ケ枝町七一ヤノシゲビル
電話（364）〇一〇〇　五一番（代表）
〇〇五一番（代表）

関大訪韓団随行句抄

山田祐道

扶餘
こゝに比びし宮址（ミヤアト）ひそと夏の蝶
百済仏
忍冬（ニンドウ）の花に永久（トワ）なるゑまひかな
李所長邸
円相を説かゝ筥の花木槿（ハナムクゲ）
平百済塔
興亡のあと夏草に塔古りぬ
夏草に風もそゝろや武寧陵
秋風徧に秋めく雲の流れかな
釈尊像石窟庵
白毫（ビャクゴウ）に夏暁（ナツアカツキ）の光りかな
鰐石亭
曲水（キョクスイ）のあとひそやかに木下闇（コシタヤミ）
武烈陵
王陵の草に乙鳥（ツバメ）の低く飛ぶ
慶州エミレー梵鐘
もてなしに撞かるゝ鐘の秋の声

新刊紹介

横田健一編　韓国史跡の旅

塚口義信

「韓国へ旅行しよう」、これはある雑誌に載せられていた文句である。海外旅行が頻繁に行なわれるようになった今日、わが国と至近距離にある韓国は大いにクローズ・アップされ、少しオーバーな表現をすれば韓国ブーの観さえ呈しつつあるといってよい。これは地理的な理由もさることながら、ここ数年来、とくに古代史における半島とわが国との関係が、改めて注目されなおしていることに起因するであろう。ことに今年の三月に発掘された、かの高松塚古墳の一件が、人々をして一層、両者間の緊密な関係に興味をいだかせたようである。

実際、朝鮮半島とわが国とが極めて密接な関係にあったことは、否定することのできない事実である。「記紀」を初めとする文献を古遺物の明証するごとく、わが国の文物は必ずといってよいほど半島を経由して伝えられてきたのである。人、このことを評して「韓国は日本文化のふるさと」というが、けだし的を射た表現であろう。しかしわれわれは、それを見て単に驚嘆しているだけに止まっていてはならない。わが国の文化の歴史的構造を理解し、よりよき日本をつくること、それはとりもなおさず、韓国を初めとする隣国の文化を理解することに他ならない。そのためには、まず知り、かつ直接に触れてみることが必要である。ところが、そうした要求を満足させる書物が従来あったであろうか。残念ながら、答はノーである。この点、本書が刊行された意義は、まことに大きいといわざるをえない。初めての本格的な「ガイドブック」であり、またそれにもかかわらず、学問的にもひじょうにすぐれている。これ私が本書を推薦するゆえんである。

さて、本書は韓国第二の大都市・釜山から出発する。そしてそこから、慶州――大邱――扶餘・公州――ソウル――済州島へと、まる八日間の旅がつづけられるのである。読み始めるや否や、読者はその巧みな表現によって、否応なしに「韓国史跡の旅」に出発するであろう。

叙述の形式は、おとずれた都市ごとにしるされているが、まず土地の印象、あたりの情景、一行の様子、などが紀行文調で描かれ、そして何よりも本書を価値あるものとしている、詳細かつ的確な史跡の解説がつづく。この解説が本書のユニークな点であることは、執筆者のメンバーがそれぞれ歴史学・考古学・民俗学・国文学などの専門家であることからも、容易に知られよう。ただ、その解説には史跡・遺物の重複が若干みられるけれども、かえってこれは執筆者それぞれの主観の相違を示すものとして注目される。読者はこのことによって、さまざまの見方があることに気づくであろう。

しかし、もちろんそう堅い内容ばかりではない。たとえば「旅のはじめに」の個所で、いくつかの旅の心得なるものが掲げられているが、これは要するに失敗談であり、「視察団」と称しながら、また史跡の解説に慢重な態度をとりながら、読んでいて、つい吹出さずにはおれない場面に遭遇する。このあたり、まことに編者らしきところである。

このように本書は「ガイドブック」であるとともに、一つの学術書でもあり、また人間性豊かな読み物でもある。読者にとって、いったいどの点がおもしろいか、それは私がここで記すより、まず読んでいただきたい。そうすれば必ずや、私のいいたいことを納得していただけるであろう。ちなみに、便利のよい「韓国指定文化財一覧表」が掲載されていることも付記しておこう。（なお、最後に執筆の分担項目を明らかにしているが（二七九―八〇ページ）、肝心の目次のところには、その番号が付されていない。これは恐らく、目次のミスプリントであろう）

（六判二九四ページ、定価六五〇円創元社刊〈創元古代史選書2〉）

おねがい

次の方々が連絡不能になっております。ご存じの方は、564吹田市山手町三―三―三五関西大学校友会名簿係までお知らせ下さい。（）内旧姓名。

昭和31年新制大学第一部法学部

▽法律学科　浅田利治　綾夏顕　池田紀弘　石井佳也　市位守　岩永尚久　岩本成正　植森忠正　内田鉄男　江崎準一　江原満　小田清重　小野三千雄　木下光明　小田谷鋼　大谷文雄　大月良造　大西洋吉　金本勉　川島陽一　川野至介　河合朗　神田登邦　木口兼男　木庭博功　喜多幸元　桐山守生　小林幸弘　合田稔　佐藤安幸　坂田実　坂本吉弘　酒向恰司　島田克之　清水鷹　清水石門　清水嘉平　菅長義　世良武生　田中功一　田中悦　田中幸丈　田村茂　田村勉　高岡務　高橋武司　樫上律太　辻本俊一郎　塚田忠夫　辻田新　辻本俊一　中西義夫　西田一成　西村純　西村温　長谷仁　中橋純一　中山巴　仲井淳　西田一成　西村純　西村温　長谷仁　畑長治郎　原正彦　原睦雄　野崎常雄　野田忠良　長谷仁　畑長治郎　原正彦　原睦雄　完尔　平井不二男　平田八郎　広瀬吉忠　深井勇　福山勝　藤本靖　古瀬敏信　前沢政二　蒔田昂　松芳雄　畑長治郎　原正彦　原睦雄　村雅弘　松本修　松尾洋　松岡信　松村雅弘　松本修　三河幸雄　光山寿一　南岡勲　箕谷一　宮崎助次　宮田和三郎　宮部義　宮武敏　森弘　森垣晃一（）　村井宏隆男　伊賀幸雄　池田巧明　岩田輝　岩本昭彦　外野勝久　宇田和之　宇部宮悦世　植田隆久　宇牛田忍　江尻清弘　遠藤順昭　小川禎一　小川寛　小原茂　大路昇　太田和男　岡本俊夫　奥村義雄　加藤精一　柏原信昭　柏村洵車　片岡節郎　兼安芳朗　上林幸司　川島昭男　川本昭夫　岸田幹雄　岸本武　北中修　橘高直哉　金永鎬　久保潤司郎　久保慶朗　栗谷寛保　栗原正博　桑田恒美　小山明久　斎藤恒雄　斎藤公明　坂田信雄　崎山英明　雀部信弘　島田良一　篠田謙一　柴田裏次　島田忠春　島田勝　新庄泰治　鈴木郁朗　鈴木謙二　田中明　田中秀和　田中稔　田中泰治　多田裕一　高橋信雄　滝亥之助　武田田邊　巽茂徳　谷本悦男　津森朗　辻本治　当麻美智也　徳永吉光　豊島慶彦　名倉義明　中川進　中西寿太　中村真司　中村孝　中村忠志　貫名史朗　野間宰治　野村泰章　波部敏　長谷川隆久　服部秀典　佐々木修　桜井敏久　菱山清一郎　平石進　平田誠　平塚一夫　広田克之　福田功　藤井延秋　藤居喜典義　福田功　藤田剛　細谷幹夫　細野善三郎　本庄克巳　真島忠良　牧野博　牧村史朗　増生　藤田好幸　藤田剛　細谷幹夫　真島忠良　牧野博　牧村史朗　増井義雄　松尾正郎　松野俊雄　松三〇二号室　松尾正郎　松野俊雄　松本規靖　三野畔　三宅俊男　水田和夫　水本敏　南中光　宮崎忠満　宮本満夫　村田俊彦　守田高章　守田定之　矢野誠治　安井正明　山口昭　山中治　山本健治　山本隆造　横山幸弘　吉武秀起　吉宗駒郎　上岡利夫　内田大樹　小嶋正虎　清水沼三郎　三宅俊男　水田　井戸五九男　石丸洋視　内田大樹　小嶋正虎　海野健也　上岡利夫　内田大樹　小嶋正虎　大塚悌　嘉根敏一　大川喜代見　大塚悌　嘉根敏一　前川義貞　牧野博　牧村史朗　増　角谷和也　桂健男　金江秀吉　原公彦　川端秀雄　木村良行　菊塚内源　井尻隆男　伊賀幸雄　池田巧明　岩田輝　岩本昭彦　外野勝久　宇田和之　宇部宮悦世　植田隆久　宇牛田忍　江尻清弘　遠藤順昭　小川禎一　小川寛　小原茂　大路昇　太田和男　岡本俊夫　奥村義雄　加藤精一　柏原信昭　柏村洵車　片岡節郎　兼安芳朗　上林幸司　川島昭男　川本昭夫　岸田幹雄　岸本武　北中修　橘高直哉　金永鎬　久保慶朗　久保潤司郎　栗谷寛保　栗原正博　桑田恒美　小山明久　斎藤恒雄　斎藤公明　坂田信雄　崎山英明　雀部信弘　島田良一　篠田謙一　柴田裏次　島田忠春　島田勝　新庄泰治　鈴木郁朗　鈴木謙二　田中明　田中秀和　田中稔　田中泰治　多田裕一　高橋信雄　滝亥之助　武田田邊　巽茂徳　谷本悦男　津森朗　辻本治　当麻美智也　徳永吉光　豊島慶彦　名倉義明　中川進　中西寿太　中村真司　中村孝　中村忠志　貫名史朗　野間宰治　野村泰章　波部敏　長谷川隆久　服部秀典　佐々木修　桜井敏久　菱山清一郎　平石進　平田誠　平塚一夫　広田克之　福田功　藤井延秋　藤居喜典義　福田功　藤田剛　細谷幹夫　真島忠良　牧野博　牧村史朗　増生　藤田好幸　藤田剛　細谷幹夫　真島忠良　牧野博　牧村史朗　増井義雄　松尾正郎　松野俊雄　松本規靖　三野畔　三宅俊男　水田和夫　水本敏　南中光　宮崎忠満　宮本満夫　村田俊彦　守田高章　守田定之　矢野誠治　安井正明　山口昭　山中治　山本健治　山本隆造　横山幸弘　吉武秀起　吉宗駒郎　上岡利夫　内田大樹　小嶋正虎　清水沼三郎